

平成 30 年度リーグ戦細則

本年度、関東理工科大学団体リーグ戦大会は、本注意事項並びに JTA ルール「JTA テニスルールブック」に基づいて行うものとする。

また、ペナルティーは選手を罰するものではなく、スポーツマンシップにのっとった試合を円滑に行うためのものである。

＜注意＞あくまでもテニスで決着をつけるのであって、ルールなどを悪用しない。

1. 出場資格

当連盟規約の出場資格参照。

2. 試合形式

The Best of 3tie-break sets match (オールタイブレイク)

男子：複 3 ポイント 単 6 ポイント

女子：複 2 ポイント 単 3 ポイント

3. 使用コート

当連盟規約のコート使用参照。

- (1) コート選択権は原則として前年度に当該校の対戦があった場合は前年度の逆とし、入れ替え戦によって変わった部もこの一環とする。但し、入れ替え戦は上位校優先、幹事校は運営の都合上最優先とする。
- (2) 対戦は、同一サーフェス 3 面 (男子) 又は 2 面 (女子) を使用して行う。但し、天候や試合進行状況に応じて、コートレフリーと両校主将・主務の話し合いの上で使用面数を増やすことが望ましい。
- (3) テニスクラブなどでコートを借りたときは、必ず両校で折半する。

4. 使用ボール

- (1) ボールは、義務買いで購入した 2 又は 4 ヶ入缶のダンロップフォートを用いる。
- (2) ボールチェンジは 9-11-11 とする。
- (3) 試合中のパンク・ロストについては、ファーストセットの 2 ゲーム目・ボール交換後 2 ゲーム目までは (ウォームアップも含む) ニューボールとし、それ以後はセットボールと交換する。但し、セットボールがない場合はニューボールと交換して良い。ボール交換は必ず 2 球とも行う。
- (4) 日没・水没となった場合には、選手が 1 個ずつ保管する。但し、両者の合意によりニューボールと取り替えてもよい。

- (5) ボールチェンジの順序を間違えた場合、間違えなかったときに本来ニューボールでサーブするはずだったプレーヤー（ダブルスの場合は組）が、次にサーブをするときに交換する。そのあとのボールチェンジは、そのゲームから 11 ゲームとする。
- (6) タイブレイクに入るところでボールチェンジがきた場合には次のセットの 2 ゲーム目が始まるところでボールを交換する。ファイナルセットの場合は交換しない。

5. 試合

(1) 試合日

基本的に日曜日にやるものとし土曜日にやる場合は、必ず幹事校に連絡し、理由を前日までに伝える。理由が正当であれば考慮する。

(2) 時刻

男女とも、複を午前 9 時 00 分とする。ただし、試合コートが遠隔地にある等の場合に限り、両校同意の上で、午前 9 時 30 分またはそれ以降の時刻を試合開始時刻とすることを認める。また、交通機関などによる遅刻は認められない。試合開始時刻が 9 時 00 分以外になるときは必ず幹事校に連絡する。

※ 遠隔地とは、自大学の最寄り駅から、会場校の最寄り駅まで最短で、2 時間 20 分以上かかる会場と定義し、始発で間に合う場合、遠隔地に当たらないものとする。

(3) オーダー交換

オーダー交換は、男女とも複、単別々に行うものとし、複は試合開始時刻 10 分前に行い、単は複の試合終了後 5 分以内に行う（オーダーを書き換えるなどの場合は、両校の話し合いの上でこの他に 5 分、計 10 分まで認める）。この時間までにオーダー交換がなされなかった場合複なら複、単なら単の試合をすべて Def とする。出場選手は、オーダー交換の際には、「10.服装」の項目に従ったウェアを着用の上集合・整列する。オーダー交換時に選手が欠けていた場合、その選手は Def となる。

(4) 試合開始・延期の判断は、コートレフリーと両校の主将・主務が、オーダー交換の 10 分前に集まり決定する。

(5) 試合の順序

男子：複 第 3 位から順に第 1 位
 単 第 6 位から順に第 1 位
 女子：複 第 2 位から順に第 1 位
 単 第 3 位から順に第 1 位

注) 試合の進行状況によりコートレフリーと両校の主将・主務の話し合いの上、試合の順序を変更することを認める。

(6) 試合開始前のコート内でのウォームアップは **5 分以内** とする。また、雨天により中断し当日再開する場合、再開前に、

15 分以下の中断	なし
15 分を超える中断	3 分間以内
30 分を超える中断	5 分間以内

のウォームアップを認める。

- (7) 日没などで中断し日を改めて再開する場合、5分以内のウォームアップを認める。
- (8) 選手は各ポイント終了後20秒以内、コートチェンジの際は各ゲーム終了後90秒以内、セットブレイクの際は120秒以内にプレーを開始する。この事に対するペナルティは「17 ペナルティの基準」の項に準ずる。

注) 時計は全て主審が計るものとする。主審はコートチェンジの際、60秒で「Time」を宣告すること。また常に残り15秒において「15seconds」を宣告すること。

(45秒「15seconds」→60秒「Time」→75秒「15seconds to play」 → 90秒「Time Violation」)

- (9) 複の試合が終了後昼食もしくはコート整備の時間として30分までのレストを認める。
- (10) 対戦が終了しない場合は、コートレフリー及び両校の主将・主務の話し合いにより日時を決定する。サスペンドの内容（サービスサイド、ポイント等）はコートレフリーが記録する。またそれを幹事校に報告する。
- (11) 対戦の勝敗は、その週の木曜日までに決める。その週の金曜日の21時までに結果が幹事校に届いていない場合は、その対戦を棄権とする。
- (12) 試合中にコンタクトを落とした時は、1試合につき片側1回、計2回まで探してから装着するまで3分間の時間を認め、本人・ベンチコーチ・質疑権所有者のみが探せるものとする。
- (13) トイレットブレイクはシングルス1人1回、ダブルスは1組2回までセットブレイク時に5分間とることができる。ただし、状態が深刻であると主審が判断した場合は例外とする。また女子に限りシングルスは着替えを理由に更にもう1回、すなわち計2回のトイレットブレイクを認める。ウォームアップ中も試合と同様回数に数える。トイレットブレイクには相手校のコートレフリーがついていくこと。ベンチコーチはついていってはいけない。

6. コートレフリー

- (1) 両校1名ずつコートレフリーを選出する。複のオーダー交換の際、互いに紹介し確認する。
- (2) コートレフリーは、本年度理工系登録者に限る。また試合前、両校の話し合いの段階で代理人を1名決めておくことにより、コートレフリーが試合に入る際、その代理人をたてることでコートレフリーの試合参加を認める。
- (3) コートレフリーの仕事
 - ① 定刻にオーダー交換を行う。
 - ② 試合中のトラブルを解消する。(16. 「質疑・抗議」の項を参照)
 - ③ 天候・日没の判断を行う。

④ 対戦結果を主催校に報告する。

1) 試合結果を、試合当日もしくは翌日までに本部宛にメールすること。これは両校のコートレフリーとも行う。これを行わなかった大学は棄権とみなしその試合をすべて Def とする。

2) 本部に何か連絡する際は、両校のコートレフリーとも行う。

- (4) コートレフリーは中立の立場にあることを尊重し、互いに協力して仕事を行い規約・細則に明記された判断・判定を行う。

7. 雨天の際の処置

- (1) コートレフリーと両校の主将・主務は、オーダー交換の 10 分前（試合開始時刻の 20 分前）にコートに参集してコート状態を判断し試合可能、不可能を決める。
- (2) 時間待ちすれば、ダブルスだけでも試合可能と決定した場合は、改めて試合開始時刻を決め直す。その際試合開始が遅れる旨を幹事校に連絡する。
- (3) 試合中に雨天となった際、中止の時期の決定は、コートレフリーが行う。
- (4) いずれの対戦も雨天中止となった際には、オーダー交換はしない。
- (5) 日曜日が雨天で中止及びサスペンドの場合、両校の話し合いでその週の月～木曜日に試合を行うこと。但し、話し合いで試合日が決まらない場合は、月曜日から優先的に行うこと。
- (6) 各入れ替え戦に限り、試合の勝ち負けが決まれば打ち切りを可能とするが、雨天や日没で全試合を消化できないなどの特別な理由による場合のみとする。

8. 日没の際の処置

- (1) 日没時刻は、当日の朝刊の新聞発表時刻を用いる。
- (2) 日没時刻以前の日没によるサスペンドは認めない。
- (3) 日没時刻以降については、両選手の同意によってのみ試合を続けることを認め、コートレフリーは両選手の意見を聞いてサスペンドの決定を行う。
- (4) ナイターがある場合は、必ずつけて試合をすること。但し完全につくまで試合を中断可能とする。その際、主審が中断時刻を計ること。
- (5) 水没・日没試合の再開時刻は、コートレフリーと両校の主将・主務が試合の進行状況から判断して決める。原則として翌日同校で行う。

9. オーダー

- (1) オーダーは、平成 30 年度連盟規約に従う。
- (2) オーダー用紙は、当連盟指定の用紙を使用し、毛筆又はペン書きとする。オーダー用紙はコピー（同倍率のみ）して使用することを認める。
- (3) オーダー順位以外の次の誤り、修正液を使用した場合や、日付、正式学校名、部印な

どの書き間違いまたは欠落があった場合、また部印が団体名に重ねられていない場合は、そのオーダー用紙に書かれたすべてのポイントのコート・サーブ選択権及び1ゲームを失う。但し、オーダー交換後10分以内に相手校から抗議がない場合は、承認されたものとして試合は成立する。これらの処置は、相手校の主将・主務の提訴があった場合に、コートレフリーが行う。

- (4) 「関東理工科大学リーグ戦規約」に記されている単・複の通常順位に違反した場合は、試合成立後もそのポイントを無効とする。
- (5) 未登録者が出場した場合は、その部における全対戦を無効とし、一部格下げとする。
- (6) オーダーはそれまで行われた試合のオーダーもすべて添加し（コピー可）、日付はそれぞれの試合を行った日（サスペンド等があった場合は、オーダー交換を行った日）の日付を記入すること。それを相手校に1通のみ必要になる。これを怠った場合、そのオーダーに書かれた全対戦を無効とする。
- (7) 訂正箇所には2重線を引き、部印がそれにかかるように押すことによって訂正を認める。（修正液不可）オーダー交換終了後の訂正は認めない。
- (8) 複オーダー交換時に複のオーダー用紙を主将が持っていなかったら複を Def、単オーダー交換時に単のオーダー用紙を主将が持っていなかったら単を Def とする。
- (9) 選手が足りない場合、オーダーは順位の上から詰めて書くこととする。

10. 服装

- (1) 選手の服装は、シャツ、ショーツ及びスコート共にテニスウェアであれば色は問わない。シャツは襟無しでもよいものとする。
- (2) ウォームアップ、トレーナー、スパッツ、帽子、バンダナ、リストバンド類の色は問わない。
- (3) Tシャツ着用での試合（試合前のアップの時間も含む）は認めない。これに違反した場合その選手を失格とする。但し、事前の話し合いで両校の同意があれば、この限りではない。
- (4) 応援者・審判・ベンチコーチはテニスウェアを原則とし、Tシャツ・防寒具も認める。尚、防寒具のカラーについては問わない。

11. 審判

- (1) 審判を出す順序

男子：	コート使用校	複	第3位、第1位
		単	第5位、第3位、第1位
	相手校	複	第2位
		単	第6位、第4位、第2位
女子：	コート使用校	複	第1位
		単	第3位、第1位

相手校 複 第 2 位
 単 第 2 位

注) 両校ともコートを持ち合わせていない場合、コート使用校ではなくコート選択権所有校とする。

(2) 副審を出す順序

主審を出す順序の逆とする。

(3) 線審

両校の話し合いの上、出すことができる。

(4) 審判は、本年度理工系登録者が行うものとする。但し、相手校が認めればその限りではない。

(5) コール範囲

① フットフォルト・ノットアップ・ファウルショットは主審、サービスのレット・タッチネットは、主審または副審のコールで有効となる。線審をつける場合、ベースラインのフットフォルトは線審、センターは主審が見る。

② ラリー中のレットは、主審のコールがあるまで続行しなければならない。もし選手がとめた場合には、その選手の失点となる。

③ オーバーコール・オーバールールは認めない。

④ フットフォルトは無警告で取らなければならない。

⑤ 主審はベースライン、主審側のサイドライン、センターラインをジャッジし、副審はサービスライン、副審側サイドラインをジャッジする。線審をつける場合、ベースラインは線審が見る。

⑥ ブラインドのジェスチャーがなされた場合は、主審ならば副審、副審ならば主審にその判定を委ねることとする。但し、このジェスチャーがなされずに後になってミスジャッジの言い逃れとしてのブラインド等は、理由にならないものとする。

(6) 主審は 5. (8) で示した全ての権利がある。

(7) 主審は直接コートレフリーを呼ぶ権利がある。

(8) 審判の降板

ミスジャッジによりコートレフリーからクレームがついた場合、1 回目を「警告」、2 回目を「降板」とする。

注) ミスジャッジが故意であったかどうかはこの場合関係ない。

尚、降板となった審判は同対戦中、他試合の審判に入ることができないこととする。

(9) 審判が降板になった場合、次の代替りの審判が入る際は、相手校から審判を出すこととする。

(10) 審判が審判台から降りたら 1 回目を警告、2 回目を降板とする。ただし、コートレフリーからボールマークの確認等を要請された場合はこの限りではない。

12. 棄権・リタイヤ

- (1) 負傷(捻挫、外傷等)・筋肉ケイレン・その他偶発的な事故の場合、3 分間の治療時間(メディカルタイムアウト)を 1 箇所に戻り、筋肉ケイレンの処置は一回に限り認める。再開できない場合は棄権とみなす。治療はコート上で行うものとし、コート内には本年度理工系登録者のみとし医師は入れない。これに違反した場合、その選手を失格とする。
- (2) 治療中のアドバイスは禁止とし、コートレフリーは必ず治療に立ち会い、治療時間 3 分間を計る。3 分経過後の時間はポイント間とみなし主審が計るものとする。ただし、治療を要請していない選手、ペアへのアドバイスは認める。

13. ベンチコーチ

- (1) ベンチコーチは本年度理工系登録者が行う。また大学の監督またはコーチ等もこれを行うことができるものとするが、その際は 1 人のみとし手続きに従ったコーチ登録をした者のみとする。
- (2) ベンチコーチは各コート 1 名とする。交代する時は、1 人がコートから退出してから、次の人が入ること。その旨は必ず主審に告げることとする。
- (3) ベンチコーチは、むやみにその場を離れたり、コート内に立ち入ったり応援してはいけない(応援は拍手のみで、声を出してはいけない)。これらに違反した場合、コートレフリーがベンチコーチに「警告」し、2 回目にはその試合のベンチコーチをなしにする。
- (4) ベンチコーチ以外の人、選手にコーチングやアドバイスをしてはいけない。また、ベンチコーチもコートチェンジの際以外にはコーチングやアドバイスをしてはいけない。これらに違反した場合、コートレフリーが当該選手に対してポイントペナルティ制度を適用する。
- (5) ベンチコーチは、チェンジコート及びセットブレイクの際、選手との接触及びストレッチの手助けを行っても構わない。また選手はベンチコーチを通して飲み物の補給を行っても構わない。

14. ボールパーソン

- (1) ボールパーソンは本年度理工系登録者が行う。但し、相手校が認めればその限りではない。
- (2) ボールパーソンをどのようにつけるかは両校の主将・主務の話し合いで決定する。
- (3) ボールパーソンは中立であり、応援することはできない。これに違反した場合、コーチングとして当該選手に対してコードバイオレーションが適用される。
- (4) ボールパーソンのボールのひどい取り合いは禁止とする。これを守らずにひどい取り

合いをした場合、該当する大学の選手に対して、コードバイオレーションが適用される。

- (5) ボールパーソンの服装は、選手と同様とする。但し、ウォームアップの着用は認める。

15. 応援

- (1) 応援者は本年度理工系登録者が行う。但し、相手校が認めればその限りではない。
- (2) **応援者は必要以上に選手に近づかないこと。**応援は試合の進行を遅らせないように注意して行う。
- (3) 相手選手に対するものは全て禁止する。すなわち、応援とは試合を盛り上げ、自校の選手を勝利に導くためのものであって、相手校の選手を野次するためのものではない。よって、声を上げ、罵声を発し、ジェスチャー・器具等を用いて相手校・相手選手・審判等の心理を錯乱させるような行動及びプレーの妨げとなる行為をしてはならない。
- (4) 連呼は原則として禁止する。但し、両校の同意があればこの限りではない。
- (5) 男子部の者が女子部、女子部の者が男子部の応援をする場合は、拍手のみとする。但し、女子部がなく男子部の中に女子部員が存在する場合、その女子部員は男子部員と考える。
- (6) 野次などの不正な応援に対する処分
1回目：学校全体に対する処分
2回目：不正な応援をした者が退場。誰が野次を行ったのか不明の場合、その面の選手に対してポイントペナルティー制度を適用する。
- (7) コーチングやアドバイスの応援に対する処分
当該選手に対してポイントペナルティー制度を適用する。
- (8) 以上(6)(7)の処分はコートレフリーが客観的に判断して行う。尚、その行為が故意でないにしても同様である。

16. 質疑・抗議

- (1) 試合についての質疑は、本細則並びに JTA ルール「JTA テニスルールブック」に基づきコートレフリーが処理するものとする。
- (2) 選手
選手は、主審に要請することでコートレフリーを呼ぶことができる。しかし、質疑に関していかなる権利も有さないものとする。但し、質疑を行う際、コートレフリーに状況・内容を説明することは認め、それ以後の質疑には加わらないものとする。
- (3) ベンチコーチ
ベンチコーチは相手校の応援その他で質疑・抗議がある場合、主審に要請することでコートレフリーを呼ぶことができる。但し、選手と同様、質疑に関してはいかなる権利も有さないものとする。

(4) 主審

主審は、選手もしくはベンチコーチがコートレフリーを要請した場合、試合進行上支障がなければコートチェンジの際に、コートレフリーの質疑の対応ができるようにしなければならない。但し、ポイントの判定にかかわる場合は直ちにコートレフリーを呼ばなければならない。更に、怪我やアクシデントが起こった場合にも、直ちにコートレフリーを呼ばなければならない。

(5) 質疑権所有者

質疑権所有者は、各校主将・主務両方にある（但し、どちらか1名に限る）。また、主将・主務が同時に試合に入る可能性がある場合、1名代理人(本年度理工系登録者に限る)を出すことができる。その場合、代理人をたてる旨をコートレフリーに伝えるなければならない。

質疑権所有者は、試合進行に関する問題の質疑、または相手校の応援等に対する質疑をコートレフリーの要請があった場合に行うことができる。但し、プレーや審判の判定に対する質疑には加わず、コートレフリーに任せるものとする。

17. ペナルティーの基準

(1) タイム・バイオレーション (Time Violation)

主審が適用する。

(a) 違反事項

- ① ウォームアップの時間経過後、“20 seconds to play”の指示から、20秒以内に試合を始めない。
- ② 不注意による20秒ルールの違反
- ③ 不注意による90秒ルールの違反
- ④ 不注意による120秒ルールの違反

(b) ペナルティー

前項の違反に対するペナルティーは、次の通りとする。

- | | |
|-------|-------------|
| 1回目 | 警告 |
| 2回目以降 | 違反ごとに、1ポイント |

(2) コード・バイオレーション (Code Violation)

コートレフリーが適用する。

(a) 違反事項

1) 理由のないゲームの遅延

- ① “Let’s play”の指示から、20秒以内に試合を再開しない。
- ② 負傷による中断後、“20 seconds to play”の指示から、20秒以内に試合を再開しない。
- ③ 自然体力消耗に陥って、試合の続行ができない。

- 2) みだらな言葉
- 3) コーチング
- 4) みだらな態度
- 5) ボールの乱用
- 6) ラケット又は用具の乱用
- 7) 言葉での侮辱
- 8) 態度での侮辱
- 9) その他スポーツマンシップに反する行為
(例えば、相手コートボールマークを調べようとして、ネットの線を越えて相手方コートへ行く等の行為を含む。)
- 10) インプレー中の応援

(b)ペナルティー

前項各号の違反に対するペナルティーは、次のデフォルト・スケジュールによる。

- 1回目 警告
- 2回目 1ポイント
- 3回目及びそれ以降 違反ごとに1ゲーム

18. 語句

(1) 退場

退場となった者は、それ以前に選手として獲得したポイントは失わないが、それ以降の当該1対抗戦の試合に関する全ての権利を失う。

- (2) 両校の同意とは、必ず試合が始まる前までに行うものとし、いったん同意された事項はそれを取り消すことに関して、さらに両校の同意を必要とする。また、同意を行う際は、その事項がどの試合に対していつまで有効なのかをはっきりとさせ、コートレフリーが必ず立会いそのことを記録しておくこと。

19. その他

- ・人数不足で必要な順番

選手 → コートレフリー → 質疑権所有者 → 主審 → 副審
→ ボーラー → ベンチコーチ → 応援